



## 長久手市長 佐藤有美さん

変化の早いこの時代、スピード感をもって  
自分のうったえてきた施策を実現していきたい

# なでしこ力



佐藤 有美市長

昨年8月の愛知県長久手市長選。同市の市会議員を3期務めた佐藤有美さんが、新人2人を大きく引き離し当選した。「愛知県初の女性首長」として注目されるが、「市議時代の12年間、どの政党にも所属せず、後援団体などもない中での市長戦での勝利」も注目され、長久手市の転換期を感じさせる結果となった。

長久手市は「ジブリパークのある街」として知られる。市民の平均年齢は40・2歳（2022年の国勢調査）と全国で最も若い。住環境が良く、市内には4つの大学があり「街の住みごこちランキング（2022、2021）」で2年連続全国1位に選ばれた。「小牧・長久手の戦い」があった歴史深い街だが、現在では先祖から市内に住む人は少数で、大半は市外からの転入者だ。平成半ばには愛知万博が開催され、終盤には市内に大型小売店舗が続々と誕生、長久手市は大きく変わり、今も変わりつつある。

その転換期に、佐藤さんが市長選に立候補した。「市議時代は、市民の声を市に届けることができ、それなりに実現できた。しかし届けるだけでは限界があり、実行する立場になって働きたい」と考えたからだ。

佐藤さんは12年前の議員当選後から、議員通信「きらめく未来づくり通信」を年4回発行し、市内にポスティングしてきた。ブログはほぼ毎日更新、議会では毎回発言をするなど、地道な努力が住民に認められ、市長選で勝利した。

「愛知県初の女性首長」とマスコミで注目され

るが、「どの政党にも属さず特定の団体や組織も持たない候補者が市長選で勝利」ということにより着目される時代が、すぐそこまで来ている。

選挙活動は、今まで関係を築いてきた議員や市民のほかに「女性を議会に！ネットワーク」が支えた。近隣の自治体で、どの党派にも属していない女性市議で構成される団体だ。佐藤さんは議員に初当選した2011年から活動を共にし、さまざまな市民活動を行ってきた。

加えて佐藤さんの夫、大学生の長男、中学生の長女が、家族一丸となって佐藤さんの選挙を支えた。「この家族だからこそ12年前の町議会選挙にも出られたし、市長選にも出られた。家族のおかげだと思っています」との言葉通り、これまでと違った選挙戦があった。

市長就任後は分単位で仕事をこなすが、夜の公務がなければ午後5時半には退庁することを心掛けている。「職員の調整力があるからこそです。学校行事など優先したい予定があれば日程を調整しますとも言われています」と語った。この10年、子どもの入学式に夫婦列席が当たり前になり、夫が育児休暇を取得するようになっ